



地区大会を終えて

国際ローター第2510地区

2022-2023年度地区大会実行委員長 **島本 和明**
(札幌西RC)

2022年10月の地区大会のホストクラブである札幌西RCの大会実行委員会を代表し、会員の皆様へ感謝と御礼のご挨拶を申し上げます。

去る10月14日から16日までの3日間に渡る地区大会は、石丸修太郎ガバナーのもと、コロナ禍のため昨年同様に指定会員のみの出席とオンライン参加というハイブリット形式の開催となりました。会員および関係各位の皆様におかれましては、ご登録など何かとお手数をお掛けした中にご出席をいただき、誠にありがとうございました。

1日目の地区指導者育成セミナーでは、研修リーダーの嵯峨義輝PGの挨拶に続き、「ロータリーにおけるリーダーとは」をテーマにRLI、RYLA、会員増強委員会によるパネルディスカッションを行いました。会員にとって大変充実したセミナーとなりました。

2日目の本会議では、来賓として北海道副知事の小玉俊宏様、札幌副市長の町田隆敏様にご挨拶を賜りました。その後午前の大会行事が進み、特に参加クラブ紹介は各クラブの工夫が随所に見られ、大変楽しい企画でした。さらに午後の地区大会記念フォーラムでは、「RYLAがもたらすロータリーの将来」のテーマでロータリー財団管理委員の三木明氏のビデオによる基調講演があり、続いて嵯峨義輝PGの司会のもと、第2580地区ガバナーの嶋村文男様もご参加され、RYLA委員や参加経験者による活発な議論が行われました。会場からも多くの質問や意見があり、盛会裏に終了いたしました。

記念懇親会は、3年ぶりの懇親会で、軽快なジャズ演奏の中で、まずは懇親会を行えることを皆で喜び、久しぶりに旧交を温める場となりました。

1日目、2日目は札幌プリンスホテルで、3日目はロイトン札幌に場を移して記念行事「ユースフォーラム」が行われました。インターアクト、ローターアクトの活動が熱心に語られ、石丸ガバナーの目指す青少年の育成が3日間のプログラムに強く反映されました。

地区大会の開催にあたり、コロナ禍の中ということもあって何かと不行き届きな点、ご不便をお掛けした点が多々あったと思いますが、何卒ロータリアンの友情と寛容の精神でお許しをいただきたく思います。お蔭様で記念ゴルフ大会から3日間に渡り開催された地区大会は天候に恵まれ、順調にスケジュールを進行することが出来ました。来年は小樽で会員全員が参加できる地区大会を開催できるよう願っております。

改めて関係各位の皆様へ感謝と御礼を申し上げ、地区大会を終えてのご挨拶とさせていただきます。



地区大会を終えて

国際ロータリー第2510地区

2022-2023年度 地区代表幹事

河口 義憲

(札幌西RC)

国際ロータリー第2510地区の2022-23年度地区大会が、10月14日（金）から16日（日）までの3日間、札幌西RCをホストクラブ、札幌西北RCをコ・ホストクラブとしてとり行われました。3年目となる新型コロナパンデミックもいまだ完全終息には至らず、参加会員の健康、安全、また会場の種々の制約から、残念ながら今回も全員参加ではなく、約300名の指定参加者と、他の多くの会員はオンライン参加でのハイブリッド開催となりました。今回の地区大会は、石丸修太郎ガバナーの強い想いで、通常のロータリー公式行事以外に、青少年奉仕で何をすべきか、ロータリー活動での青少年育成に特に力を入れ、メインの外部講師は呼ばず、手造りの内容でユニークなものとなりました。

第1日目朝からは、久しぶりに記念ゴルフ大会が天候にも恵まれ、19組の参加で盛大に行われました。午後からの会長・幹事会に続き、指導者育成セミナーが開かれ、青少年育成のテーマもあり、翌日の本会議の特別企画へと続きます。その日の夜は記念懇親会が開かれ、多人数の会食が制限されていた中で、北海道では久しぶりに大勢の方が参加された夜の会合となり、大いにロータリアンの親睦を深めました。翌日の本会議は、午前10時にジェニファー E. ジョーンズ国際ロータリー会長のビデオメッセージでスタートし、島本和明大会実行委員長の開会の挨拶から、石丸ガバナーの開会の点鐘で本会議の始まりとなりました。札幌西RC両貝尚子ソングリーダーとともに国歌斉唱、ロータリーソングが斉唱され、その後この1年で亡くなられた21名の会員が偲ばれました。そして石丸ガバナーの想いを語る開会挨拶となりました。その後小玉俊宏副知事、町田隆敏副市長の来賓挨拶後、ビデオによる各参加クラブのユニークな紹介があり、続いて石丸ガバナーの現状報告で、国際と地域のロータリー活動の現状の詳しい説明がありました。

午後は大会決議から始まり、引き続き大会記念フォーラムとして「RYLAがもたらすロータリーの将来」が開催されました。三木明財団管理委員の基調講演（ビデオ）後、嵯峨義輝地区研修リーダー（PG）率いるパネルディスカッションで4名のパネラーの話があり、最後に「RYLAはロータリーを変える！」との明るい予想が出されました。嵯峨地区研修リーダーの軽快な討論進行が光りました。その後はクラブ、会員表彰が個別に丁寧に行われ、記念品が贈呈されました。松浦光紀ガバナーエレクト、出村知佳子ガバナーノミニーの抱負を語る挨拶後、石丸ガバナーのお礼の言葉があり、得能宗洋大会実行副委員長が閉会挨拶をし、最後に石丸ガバナーの閉会の点鐘となり、第2日目は終了しました。会長・幹事会、本会議の主な司会進行は札幌西北RCの吉田聡子幹事でした。その夜、記念懇親会が開かれ、前日以上の参加者で大いに盛り上がり、バンドの生演奏もビートルズのイマジンで始まり、最後に再びイマジンの曲で演奏は幕となりました。

第3日目は記念行事のユースフォーラムで、午前はインターアクトを、午後はローターアクトを焦点に若者が集い語り合い、石丸ガバナーの思い描く地区大会が幕を閉じました。300名を超える会場参加の会員の皆様、1,000名を超えるオンライン参加の会員の皆様、ご不自由な中、ご参加ありがとうございました。また準備期間から大会終了まで、運営にご協力いただいた関係諸氏の皆様、大変お疲れ様でした。

地区大会特別企画 「RYLAがもたらすロータリーの将来」

国際ロータリー第2510地区 青少年奉仕委員会

委員長 西村 英晃
(恵庭RC)



この度の地区大会にて開催されました特別企画「RYLAがもたらすロータリーの将来」の公演を拝聴し、地区青少年奉仕委員長として感じたことを記したいと思います。

まず、「RYLA」×「ロータリーの将来」という風に考えた時に、RYLA学友、地域住民、RYLA学友ではないロータリアン、ロータリーの青少年に関わる事業と接点があるロータリアン、全くロータリーの青少年に関わる事業と接点がないロータリアンでは感じ方や想うことが違うのではないのでしょうか！？

青少年交換学友、ローターアクトOBまた青少年に関わるロータリアンとして一言で、

「より多くの青少年を育成することが未来のロータリーの輪の大きさ」ではないかと考えます。

余談ですが最近ではコロナ禍で夜間例会などで「手に手を」をしばらく見聞きしていなかったと思います。今回の地区大会で久々に皆さんと手を握り輪を作った時の何とも言えない心が温まる気持ちは忘れません。「あっ、これがロータリーだな」と思いました。奉仕の心を持った皆が一つになり手と手で繋がった時の一体感は言葉では言い表せられない、ぬくもりから何かが伝わる特別な時です。

それが何を意味するかと言うと、仮に世界中にいる同じ志を持った我々ロータリアンとロータリーに少しでも理解ある地域の人々、インターアクター、ローターアクター、青少年交換学生、RYLA学友、米山奨学生、その他すべての学友を含めたロータリーに関わりの有る皆が手をつないだことを想像してみてください。きっと大きな輪が想像できることでしょう。これこそがロータリーの将来ではないのでしょうか？

意味することは、皆が同じ気持ちで地域に貢献する、同じような心を持って助け合える、世界中にファミリーがいると言う事を忘れないで、行きつくところは世界平和なのです。

RYLAセミナーを通して地域の若者が、衣食住をロータリアンと共にし、参加者皆が共有する時間の中で、目で見ても耳で聞き実際に体験をする。その過程で、リーダーシップを養ったり、思いやる心を育てたり様々なことが生まれるのではないのでしょうか。RYLAセミナー最終日に涙を浮かべる若者、また同じく涙を浮かべるロータリアンの姿も有ります。一人ではなくクラブでもなく、このようなロータリーの活動が青少年奉仕の一つでもあるのではないかと思います。よく青少年奉仕とはインターアクト、ローターアクト、青少年交換、RYLAをあげられることも多いですが、それらに限らず、各クラブで行っている野球大会や暗唱大会などもその青少年奉仕の例に挙げられると思います。

このような我々の活動が、クラブの会員数＝ロータリーの大きさではなく、地域のロータリーに理解のある人々、ロータリアン一人ひとりがクラブから地区へ、また日本全34地区、世界へと広がり、ロータリーファミリーすなわちロータリーの将来の夢と希望に繋がるものと考え、今回の地区大会の特別企画から感じたまとめとさせていただきます。



国際ローター第2510地区地区大会ユースフォーラム 地区インタラクティブ交流会を終えて

国際ローター第2510地区 インタラクティブ委員会

委員長 福見 隼人
(札幌東RC)



10月16日(土)10時00分より地区インタラクティブ交流会が会場とオンラインによる参加方法で開催されました。インタラクティブ交流会の前半は地区インタラクティブを卒業された関ほのかさんがZoom参加でインタラクティブの思い出のお話を、地区インタラクティブ委員長を務められた札幌モーニングRCの齋藤さんにも壇上でお話をいただきました。その後は当地区インタラクティブクラブの活動紹介や各クラブの学校紹介・活動報告、後半はパネルディスカッション形式での意見交流を行いました。

学校紹介では、岩見沢緑陵高等学校や札幌第一高等学校の生徒が、高校生とは思えないくらいの上手な話し方で会場参加者がとても驚いた表情をしているのを記憶しています。また、札幌山の手高等学校は男子生徒によるユーモアを凝らした内容を披露し、会場を沸かしていました。北海高等学校と大谷室蘭高等学校は、与えられた時間内に発表を完結させる時間調整力に優れており、札幌龍谷学園高等学校は参加者とのコミュニケーションを上手に活かし、会場の雰囲気を変える力が素晴らしかったです。

後半のパネルディスカッションでは、各校の生徒や顧問教員、地区インタラクティブ委員がパネラーとして参加し、インタラクティブ部への入部のきっかけやインタラクティブ部を担当することに至った経緯、提唱しているクラブとの交流等、詳しくお話を聞くことができました。講評では松浦光紀ガバナーエレクトより大変すばらしいとお言葉をいただき、インタラクティブ交流会を終えることができました。

会場参加者からのアンケートでは、「インタラクティブのことをより深く知ることができた」、「自分たちの地域でも複数のクラブと共同でインタラクティブを提唱することを検討したい」等の感想をいただき、石丸修太郎ガバナーの想いである当地区のインタラクティブクラブの活動を会員により深く知ってもらうという目標を達成できたのではないかと考えます。

また、11月5日を含む1週間は、世界インタラクティブ週間（World Interact Week）に指定されています。10月に地区大会及びインタラクティブ交流会を開催したことで、その後、各クラブの例会においてもインタラクティブの話題が出るのが予想され、今一度青少年奉仕であるインタラクティブクラブの提唱ということについて、改めて認識していただければと思います。

今後はアンケート集計で反響をいただいた3つのクラブに対し、インタラクティブクラブについての卓話依頼をさせていただく予定です。インタラクティブの魅力を伝えることで、今後、第2510地区内にインタラクティブクラブが新規設立されることを期待します。



ユースフォーラムを終えて

国際ローター第2510地区 ローターアクト委員会

委員長 高橋 耕
(札幌南RC)

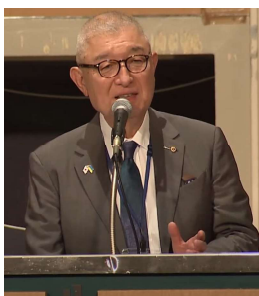


10月14、15日に開催された地区大会に付随して、16日にユースフォーラムが記念行事として開催されました。午前はインターアクト、午後はローターアクトに時間が割り当てられ、各委員会の主導のもと、ロータリアンにむけてそれぞれの活動をご紹介し認知を広めてもらえたらとの趣旨で開催されました。まずは、このような機会を頂き、ガバナーはじめ実行委員会の皆様に感謝申し上げます。

初めてこの企画を伺った時に、どのようなプログラムにするかを委員会で検討しました。ローターアクトには様々な課題があり、いくつかのプログラムが候補にあがりましたが、最終的にはローターアクトクラブを新設するための情報提供の場にしようとの思いでまとまりました。第2510地区には現在5つのアクトクラブがあるが、他地区から見るとクラブ数が少ないのが実情であり、その状況を打破したいとの思いと、新クラブの設立が会員減少の対策になるとの思いからです。

私は10年前にローターアクトを卒業し、2013年に札幌南RCに入会しました。その後、クラブや地区のローターアクト委員会として活動してまいりましたが、ローターアクトを提唱することが、将来的に提唱したクラブの活性化、会員増強につながることを実感しております。そこで、ローターアクトを提唱している札幌南RCの羽部大仁PGにこのようなローターアクト委員会の考えを伝え、基調講演を依頼いたしました。その基調講演のなかで、「ロータリアンの皆様の10年後を考えてみてください。我々に期待することがだんだんと難しくなるのでは？」との言葉が印象に残っています。10年後のクラブを見据えたときに、次のクラブを担う人材を育成していくことの重要性が込められていると感じました。また、最後にはロータリアンには経験と経済力があり、ローターアクトにはアイデアと行動力があり、これからはともに活動していくパートナーであるとの言葉で締められていました。

ユースフォーラムは、小椋RAC地区代表の活動報告、ローターアクト委員会よりローターアクトの制度の変更点、ローターアクトクラブのつくりかたの説明の後、羽部大仁PGの基調講演、パネルディスカッションのプログラムで進行し、滞りなく無事に終了いたしました。今回のように、提唱クラブ以外のロータリアンに直接アプローチする機会がほとんどないため、とても貴重な時間をいただけたと思っております。ローターアクト委員会としては、アクトの活動や状況の情報発信を積極的にすすめ、ローターアクトをより身近に感じてもらえるように努めてまいりたいと思います。



写真で見る地区大会

